

<東京のグランドデザイン検討委員会(第1回)>

# 超高齢未来を創造するTOKYO

～安心で豊かな長寿の実現のために～

～安心で活力ある超高齢・長寿社会へ～



Gerontology

2015年6月30日

ニッセイ基礎研究所 主任研究員 前田展弘  
(東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)

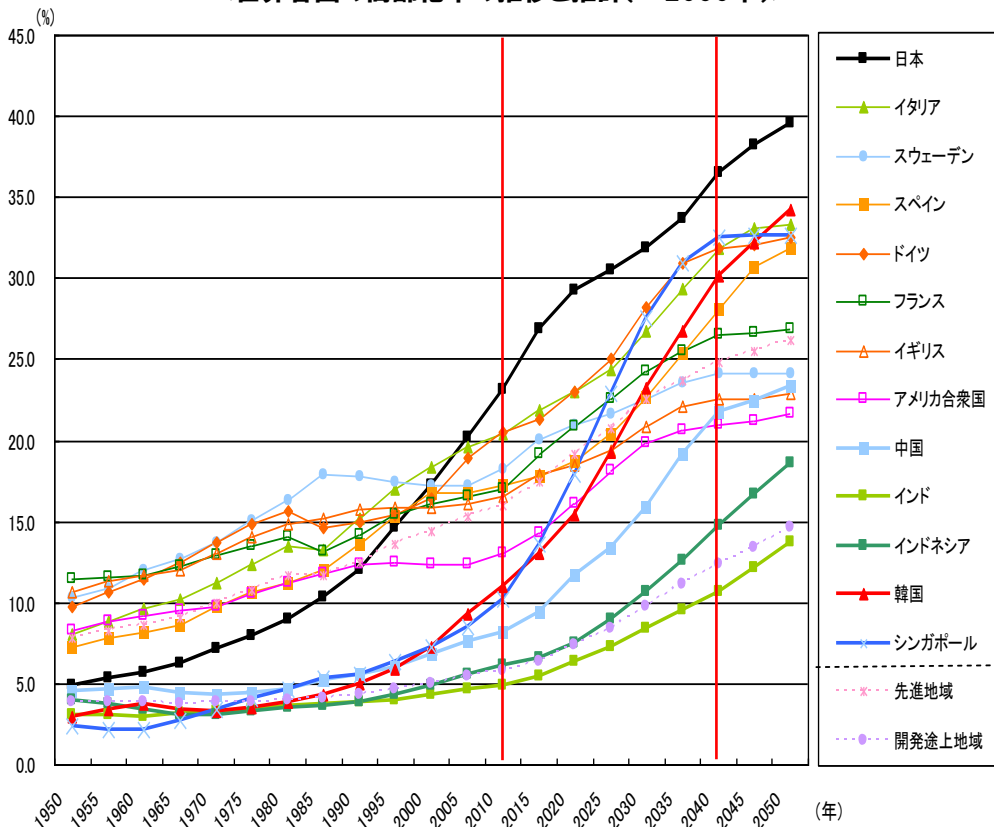
# 1. TOKYO／日本の成長ポテンシャル(＝高齢化課題解決)

“地球まるごと高齢化”⇒高齢化課題は世界共通課題

高齢化最先進国日本をリードするTOKYO⇒高齢化課題解決モデルは世界を創造する！

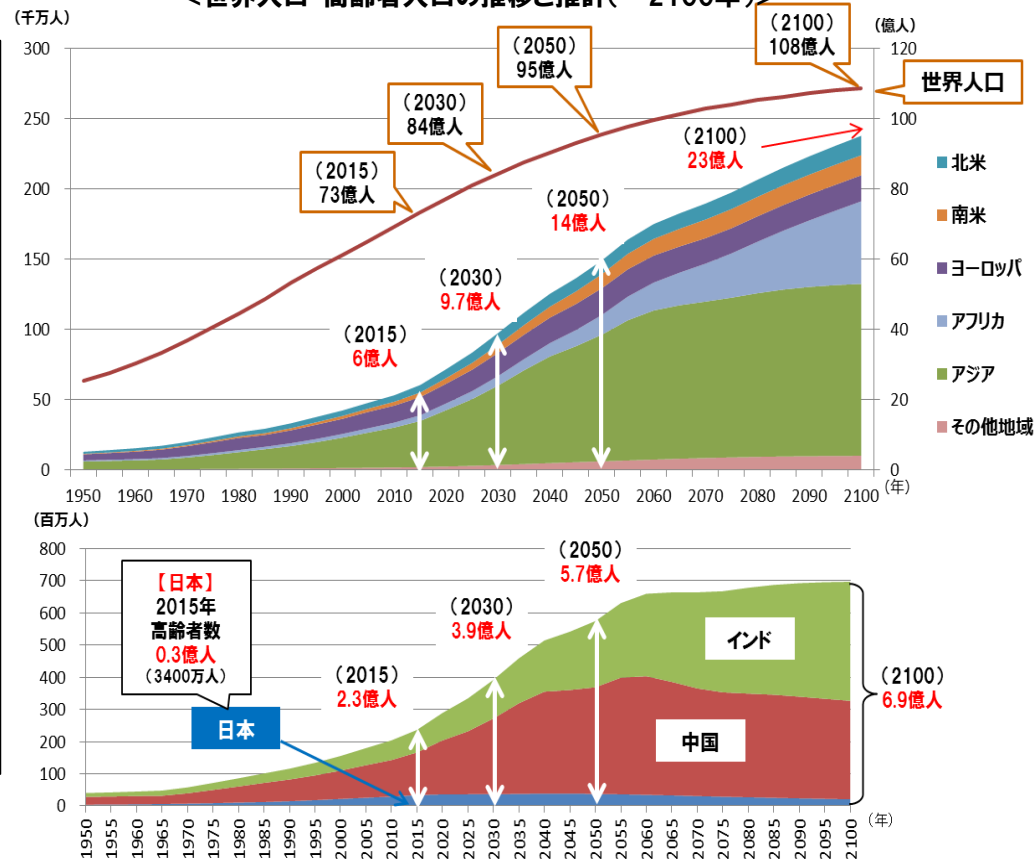
## ■ 日本は高齢化最先進国・フロントランナー

＜世界各国の高齢化率の推移と推計(～2050年)＞



## ■ 世界は“人口爆発”⇒高齢者人口も爆発

＜世界人口・高齢者人口の推移と推計(～2100年)＞



※先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドをいう。開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシアからなる地域をいう。

資料：UN, World Population Prospects: The 2010 Revision ただし日本は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

※高齢者人口は65歳以上の人口。「世界人口」以外はすべて高齢者人口を表している

資料：United nations: World Population Prospects: The 2012 Revisionより作成 (ただし日本は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計」(平成24年1月推計)、出生・死亡中位推計値)

# 2. TOKYO / 日本が目指すべきは都民(国民)の“Well-being”の最大化

高齢期に迎える3つのステージを“より良く生きていける”ことが  
長寿時代の理想のサクセスフル・エイジング！

将来不安が払拭仕切れない  
現代社会

漠然とした強い将来不安  
に苛まれる中年層

どういった  
老後を過ご  
せるか

全く想像  
できない

家計も厳しく  
蓄えもない

リタイアし  
たら何をし  
よう？

親のことも  
心配

もっと人生(高齢期)に夢を持ちたい。  
明るい展望を抱きたい

新たな生活創造の渦中にある  
団塊世代

自由を手にした  
ものの、何をし  
ようか...

社会のニーズは  
限定的・閉鎖的

私たちが楽しめる場所・機会が  
社会に少ない

活躍できる場が  
わからない

TVばかり見てし  
まう。時間を待  
て余す

もっと日々を充実させたい、  
活躍したい、楽しみたい

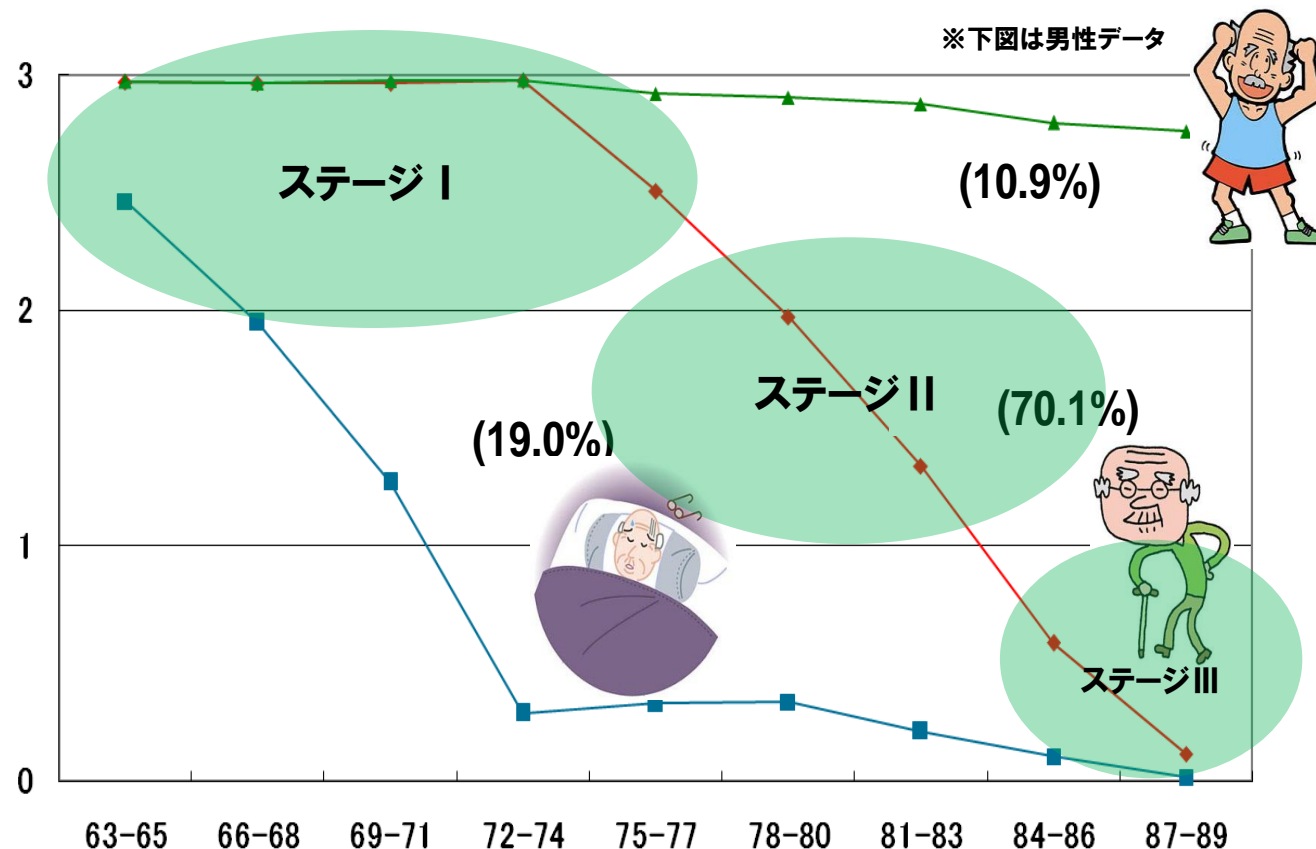
自立

手段的日常生活動作に  
援助が必要

基本的&手段的日常生活動作に  
援助が必要

死亡

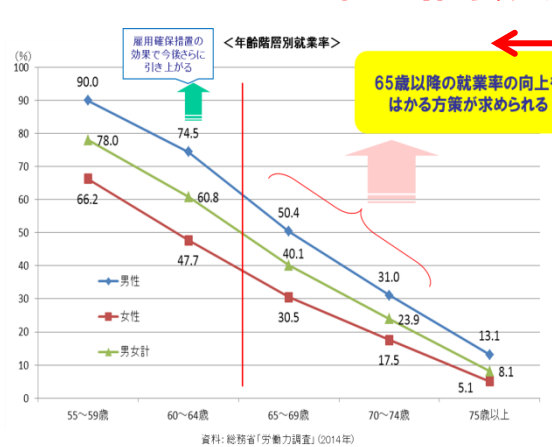
<高齢期の自立度(≒健康状態)の変化パターン(n=5715)>



(出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想 『科学』 岩波書店, 2010

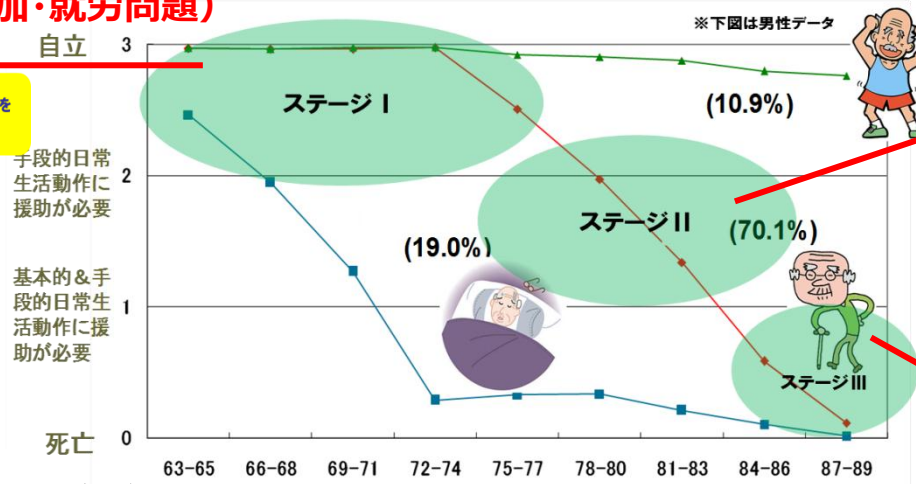
# 3. 高齢期の生活課題の解決が未来社会創造の前提

## ■ 活躍できるのにできない (社会参加・就労問題)



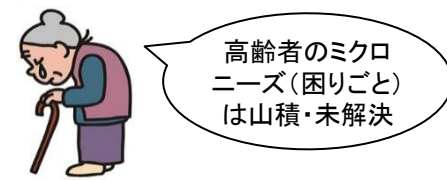
65歳以降の就業率の向上をはかる方策が求められる

<高齢期の自立度(≒健康状態)の変化パターン(n=5715)>

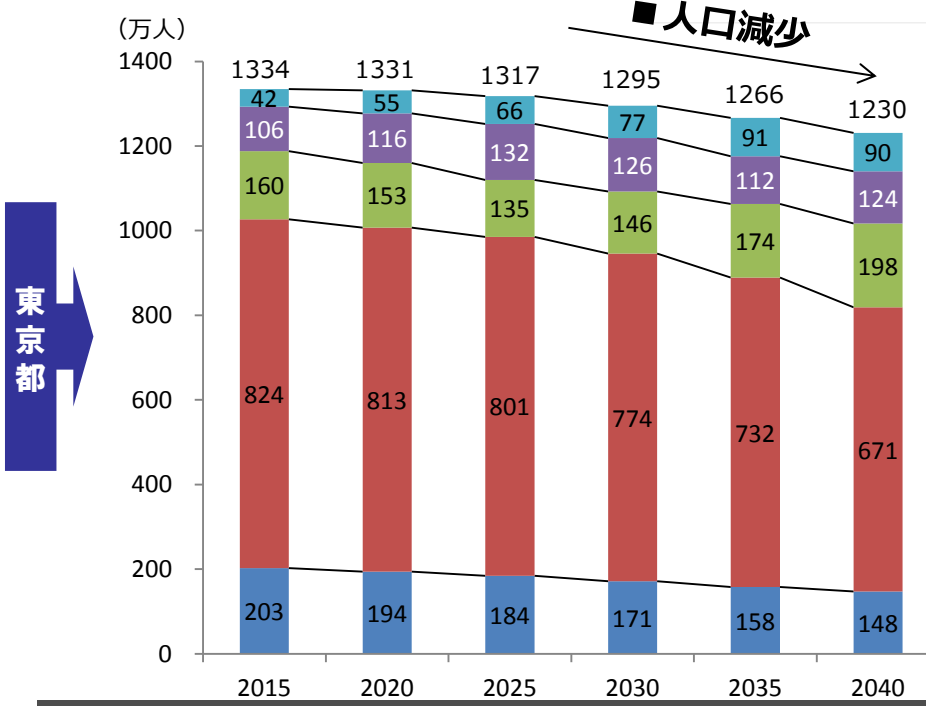


## ■ 社会的サポートの不足 (身体的・生活環境の変化期)

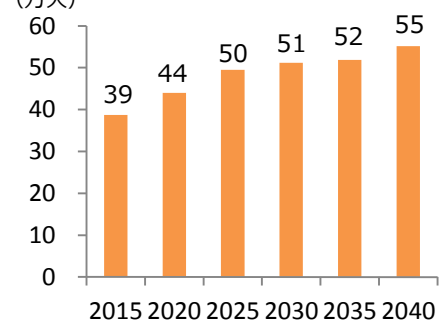
- 家族力・地域力の低下
- 自立生活の継続を切望 (本人の声)
- いくつかになっても楽しみたい ( " )



## ■ 医療・介護サービス供給不足問題 (都市部)



## ■ 要介護高齢者の増加



## ■ 人口構造 (支え合いバランス) の変化

	2015	2020	2025	2030	2035	2040
65歳以上	308	324	332	350	377	412
20-64歳	824	813	801	774	732	671
(比率)						(人)
65歳以上	1	1	1	1	1	1
20-64歳	2.7	2.5	2.4	2.2	1.9	1.6

## 4. 2040TOKYOグランドデザインに向けた基本的考え方

- 人生100年時代、長寿を“生き抜く”ことは大変・・・不安ばかり(現在)
- 人生100年を前提とした都民(国民)の生き方の変革(改善)を促す取り組みとその都民(国民)の生き方ニーズを支える社会制度・インフラの再構築を同時に進めていくことが求められる
- 高齢化課題解決には“大鉈を振るう”革新的断行(リーダーシップ)が必要!
- 高齢期の生きがいと安心を築くことは、若者に希望をもたらすことになる!

本格的な超高齢社会は目前に迫っている・・・課題は山積  
笑顔溢れる理想の未来を築けるか、いまがその過渡期

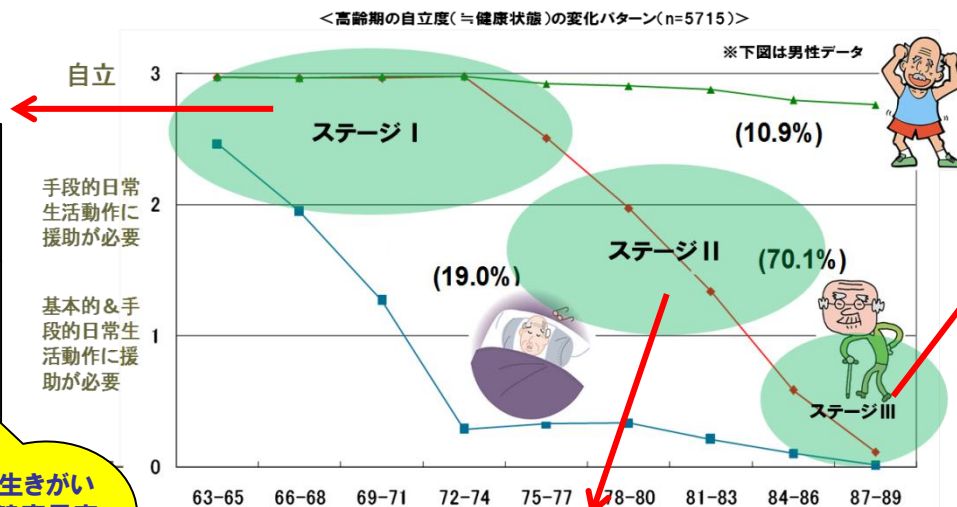


# 5. 高齢期の生きがいと安心を与えるグランドデザイン要素・条件

## 《2040TOKYOグランドデザイン(要素)》

人生100年の長寿を最期まで安心して豊かに暮らしていける社会の確立

(2040) 年金だけでは暮らせない年齢に関わらず活躍し続けられる



(2040) 独りでも認知症になっても住み慣れた地域・自宅でも暮らさせていける

### 1 ライフデザインイノベーション

【都民(国民)】

- 人生多毛作の実践 (複数キャリアの構築)
- ワーク・ライフ・ケアバランスの継続
- 社会参加／生活支援・ケアの義務化

【地域・社会】

- セカンドライフ支援プラットフォーム機能の高度化(既存制度・システムの再構築)
- 50歳～セカンド小学校の定着・機能化 等

生きがい  
健康長寿  
生産・消費

### 2 シルバー・イノベーション

- 生活を支えるコンシェルジュ機能の整備
- 「商助」の普及と奨励(課題解決貢献企業の表彰)
- 公民連携推進 ■ Living Lab整備 等

(2040) 高齢期の生活を快適に豊かに、楽しみに満ちた生活資源(商品サービス等)が整っている

### 3 Aging in Placeイノベーション

【地域・社会】

- 地域包括ケアシステムの高度化 (予防・医療・介護・住宅・生活支援)
- ※ サービス供給問題の克服
- ※ 家族の支援体制の強化
- 認知症の人との共生
- 緩和医療・ケアの推進
- 尊厳死が認められる社会
- 孤独死ゼロ社会

【都民(国民)】

- ポジティブに最期を迎える文化の形成

共通前提

【社会啓発・教育】 超高齢・長寿社会のパラダイムシフト＝ジェロントロジーを基礎知識に！

# 6. 東京都への期待①～2040TOKYOグランドデザイン

## ① ライフデザイン・イノベーション

- －高齢化課題の最大の特効薬は、「**高齢者の社会参加の促進**」
- －高齢者の**健康寿命の延伸**、**地域経済**へ貢献する(生産者・納税者・消費者であり続ける高齢者の増加)
- －高齢者は**貴重な社会資源**⇒地域の課題解決の力として導くことが肝要(社会の**支えあいバランス**の改善)

### ■地域における**魅力ある仕事(雇用)**の開発とマッチング

- －**セカンドライフ支援プラットフォーム事業**の整備(※既存の制度・システムの合理化も視野に)

### ■社会参加における**インセンティブ**ある施策の構築

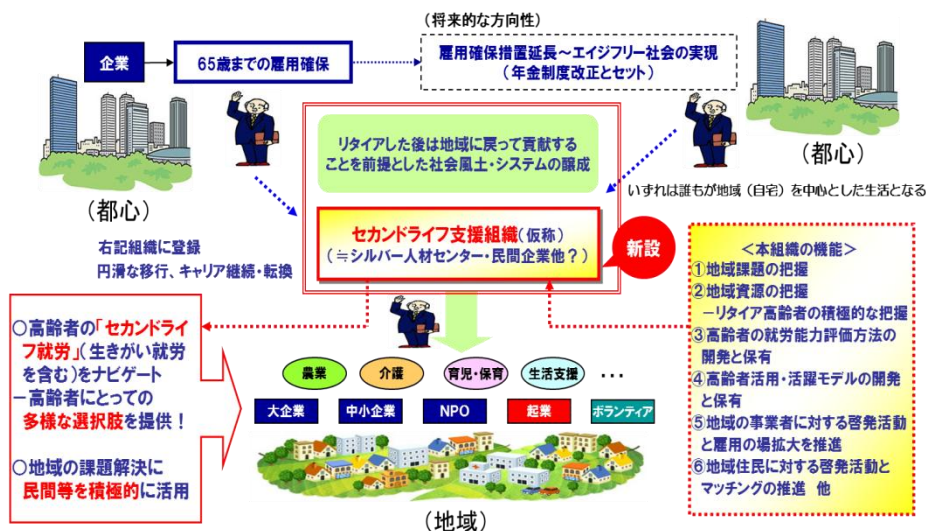
- －社会参加の問題は、**無関心層へのアウトリーチ**(及び情報の非対称性)

### ■自治体単位の「**人生100年時代のライフデザイン研修(=ジェロントロジー教育)**」の実施

### ■**50歳～セカンド小学校事業**の構築と実施(=必然的な地域とのつながり機会の提供)

- －社会的孤立問題の**予防策**、**地域力の強化**、**生きがい創造**に効果的

＜セカンドライフ支援プラットフォームのイメージ＞



＜生涯現役社会の多面的効果＞



# 6. 東京都への期待②～2040TOKYOグランドデザイン

## ② シルバー・イノベーション

- ①の雇用創出をはかるためにも、**経済・市場の活性化**は不可欠
- 高齢化課題解決をはかる成果(商品サービス等)は世界の市場に通用する(世界が期待している)
- TOKYO発のグローバル展開は、すなわち日本の経済の発展

### ■徹底した「**シルバー・イノベーション**」を促進する政策の推進

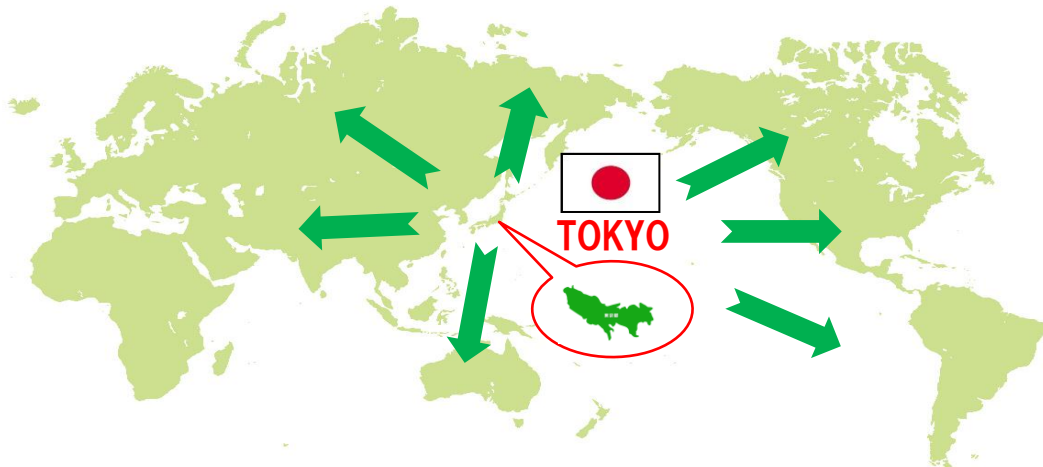
#### 高齢化課題解決(=未来社会創造)に貢献する**企業を奨励策**の推進(**商助**の概念普及)

- 高齢化対応の事業創造に二の足を踏む企業も少なくない。CSRの枠を超えた未来社会に貢献する企業の取り組みを積極的に奨励することが望ましい

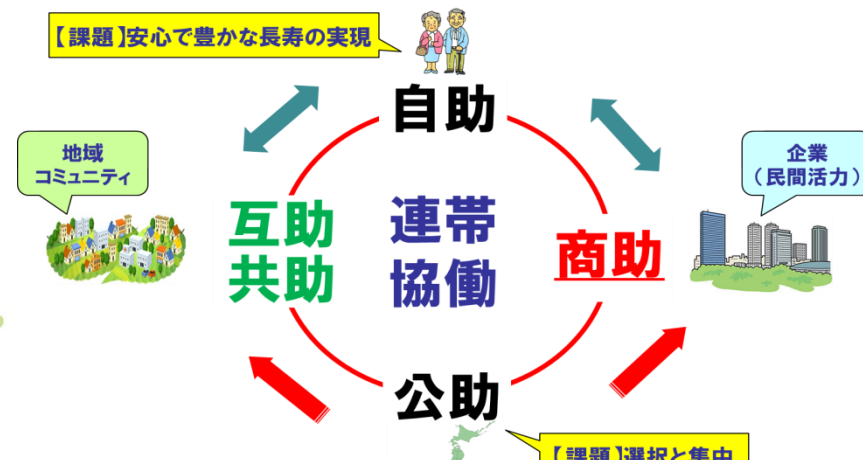
### ■変化期にある高齢者の生活を支える**コンシェルジュ整備策**の構築

- ひとり暮らしの後期高齢者は増加。かかりつけ医(ホームドクター)だけでなく、生活全般にわたって**相談・支援ができるコンシェルジュ**をマン・ツー・マンで配置するなど(⇒**元気高齢者が担うこと**をイメージ)  
※公民連携を積極的にはかりながら、**民間の力**を利用することも一案

<高齢化課題解決モデルを世界に配信>



<「商助」の概念イメージ>





# 6. 東京都への期待③～2040TOKYOグランドデザイン

## ③ Aging in Place・イノベーション

- －最期まで、独りになっても、認知症になっても、安心して住み慣れた地域・自宅で過ごしたい
- －医療を生活の場に導く「在宅医療」は、未来社会に不可欠な地域インフラ
- －在宅医療を含む総合的な医療ケア等のサービスを一元的に供給する「地域包括ケアシステム」は理想的

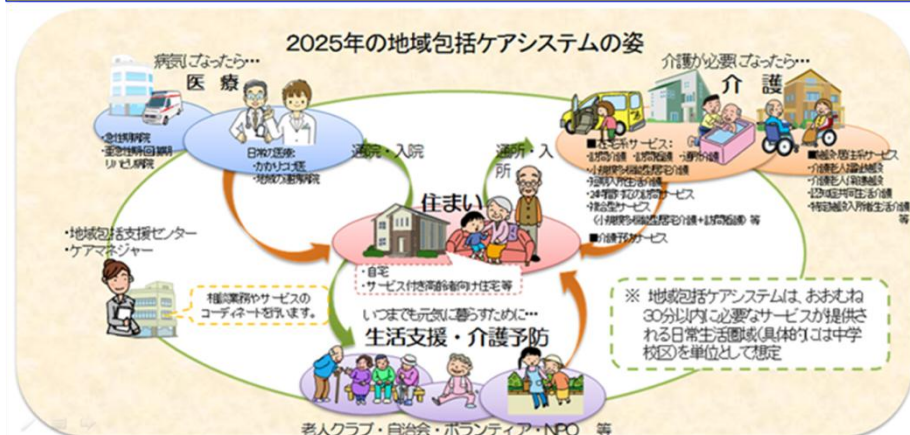
### ■東京版「地域包括ケアシステム」の具体化・ビジネスモデルの構築

- －当システムの具体化は現時点では不透明(多くの地域において)。自治体を中心に医師会の協力を得てシステムは成立する。民間の力も積極的に投入しながら、理想の東京版「地域包括ケアシステム」が構築されることが望まれる

＜地域包括ケアシステムのイメージ＞

＜在宅医療を推進するための取り組み（千葉県柏市）＞

徒歩30分以内の圏域ごとに、「予防」「医療」「介護」「住宅」「生活支援」の5つのサービスを一元的に提供する仕組み・システムを2025年までに全国に整備する。最も重要なポイントは、住みなれた自宅及び地域の中で最期まで暮らし続けることが可能となるように「在宅」を中心とした医療と介護が提供できるようにすること(病院から在宅へ:Aging in Place)



資料：厚生労働省資料を一部加工

### 1 在宅医療に対する負担を軽減するバックアップシステムの構築

- ① かかりつけ医のグループ形成によるバックアップ(主治医・副主治医制)
- ② 急性増悪時等における病院のバックアップ体制の確保

### 2 在宅医療を行う医師等の増加及び多職種連携の推進

- ① 在宅医療多職種連携研修の実施  
→在宅医療を行う医師を増やし、多職種連携を推進
- ② 訪問看護の充実強化
- ③ 医療職と介護職との連携強化

### 3 情報共有システムの構築

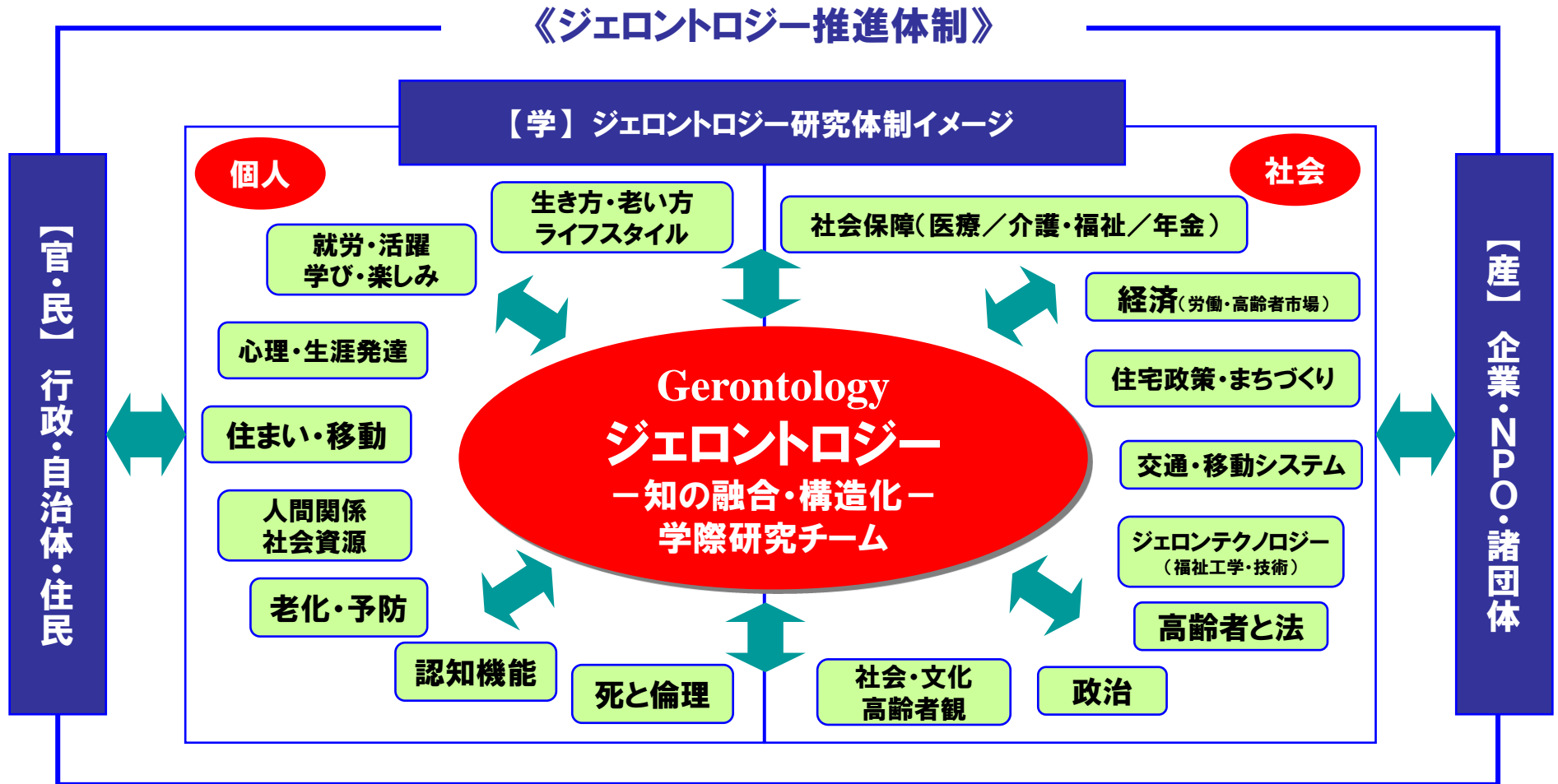
### 4 市民への啓発、相談・支援

### 5 上記を実現する中核拠点(柏地域医療連携センター)の設置



資料：柏市資料より引用

# <参考>ジェロントロジー(高齢社会総合研究)



高齢化課題解決 ⇒ 超高齢未来(生活・社会)の創造

# <参考>ジェロントロジーの教科書

高齢社会検定  
試験も実施

2015.9.12

@東京大学駒場キャンパス



<テキスト(書籍)> (@1800円+税、300頁)

◆編著:東京大学高齢社会総合研究機構

◆編集協力:ニッセイ基礎研究所

※執筆者:東京大学高齢社会総合研究機構メンバー(教授)他

※出版・販売:(株)ベネッセコーポレーション

## 総論【共通】

第1章:超高齢未来の姿

第2章:超高齢未来の課題

第3章:超高齢未来の可能性 ~課題解決に向けた方向性

## I. 人生90年時代のライフデザイン【個人編】 (個人のエイジング課題の解決に向けて)

第4章:長寿時代の理想の生き方・老い方

第5章:高齢者の活躍の仕方(就労・社会参加・生涯学習等)

第6章:高齢者の住まい

第7章:高齢者と移動

第8章:高齢者の暮らしとお金

第9章:高齢者の暮らしを支える社会資源

第10章:老化の理解とヘルスプロモーション

第11章:認知・行動障害への対応

第12章:最期の日々を自分らしく

## II. 超高齢社会のデザイン【社会編】 (社会の高齢化課題の解決に向けて)

第13章:超高齢社会と社会保障

第14章:医療制度の現状と改革視点

第15章:介護・高齢者福祉の現状と改革視点

第16章:年金政策の現状と改革視点

第17章:住宅政策・まちづくり

第18章:交通・移動システム

第19章:ジェロンテクノロジー(福祉工学)

第20章:高齢者と法・自己決定と本人保護

• • • ご清聴ありがとうございました

Gerontology  
Gerontology

2015年6月30日

ニッセイ基礎研究所 主任研究員 前田展弘  
(東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)